

# 受賞者「姫路市」

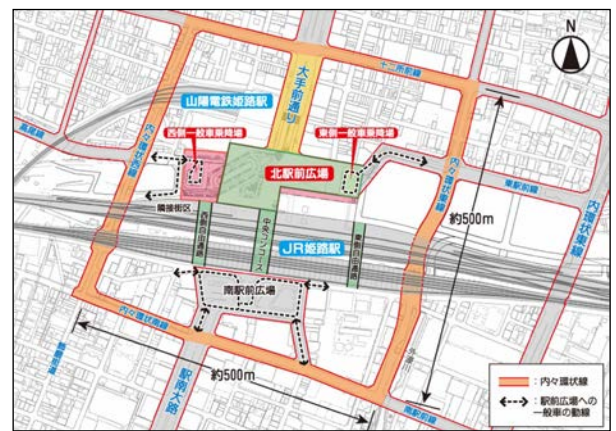
## ＜トランジットモール導入による歩行者にやさしい駅前整備＞

姫路駅前において、駅周辺に分散していたバスターミナルなどを集約するとともに、トランジットモールを導入し、交通結節機能の大幅な向上を図り、中心市街地における公共交通サービスを向上させた。また、道路空間配分の見直しによる道路交通環境の改善（車道減少、歩道拡幅）など、快適な歩行環境を創出。その拡幅された空間に緑化を施すなど、官民協働で環境保全に配慮しながら、安全・快適な空間を創出する駅前整備を行った。

### 1. トランジットモール導入の背景

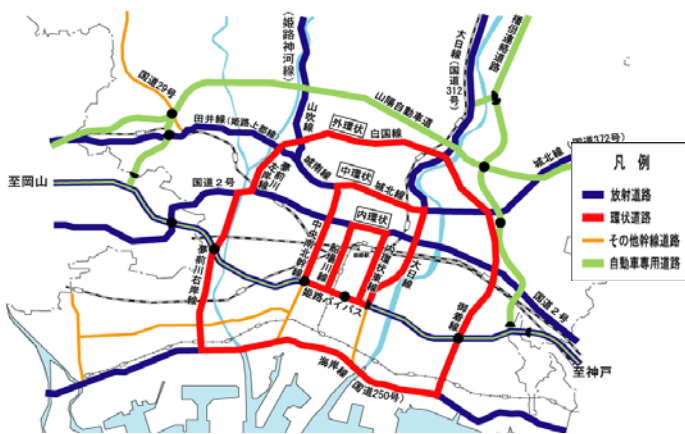
姫路市の道路交通は、1981年に「播磨都市圏総合交通計画」に示された姫路市幹線道路網計画に基づき、姫路駅を中心とする3環状10放射の幹線道路網により、周辺地域から中心市街地へ集中する交通や通過交通を分散させることとしています。

特に、姫路駅周辺地区では新たなまちづくりに向け、姫路駅を中心とした約500m四方に幅員25mの都市計画道路（内々環状道路）を整備し、このエリア内を安全で快適な人に優しい交通環境とすることを目指し、1989年から姫路駅周辺整備事業として、連続立体交差事業、土地区画整理事業、関連道路事業などを一体的・総合的に実施してきました。



姫路駅前の整備にあたり、連続立体交差事業が完成に近づいた2008年に、駅前整備の核となる北駅前広場の都市計画変更の手続きに着手したところ、広場計画の素案に対し、商店街連合会や商工会議所など各種団体からレイアウト等について、様々な意見や提案が出されました。市はこれらの意見・提案を集約するため、市民団体、交通事業者、関係権利者などで構成する「姫路駅北駅前広場整備推進会議」を立ち上げ、官民協働で駅前広場の基本コンセプトや基本レイアウトを決定することになりました。また、推進会議と並行して開催された市民フォーラムにおいて、内々環状道路内の大手前通りへの一般車の通行制限（トランジットモール化）の提案を受けたことにより、推進会議においてもこれについての議論が開始され、導入に向け官民協働での取組が始まりました。

姫路市幹線道路網計画



## 2. 事業の概要

2010年に「城を望み、時を感じ人が交流するおもてなし広場」を基本コンセプトに、北駅前広場の再整備と広場と姫路城を結ぶシンボルロードである大手前通りの全面改修に着手し、内々環状道路内は2015年3月に整備が完了。4月からトランジットモールとしての交通規制が開始されました。

### ① 交通結節機能の向上

分散していたバス・タクシー乗り場を広場西側に集約し、その上空にJR姫路駅と山陽電鉄姫路駅を結ぶ歩行者連絡デッキを整備しました。



### ② 道路空間配分の見直し

駅前への進入を路線バス・タクシーに限るトランジットモール化により、大手前通り（幅員50m）の幅員構成を見直し、車道を片側3車線から1車線へと縮小し、歩道の大幅な拡幅を行いました。

### ③ 官民協働による駅前整備

中心市街地における大規模なトランジットモール化に向け、整備が完了するまでの2年半の間、社会実験として一般車両の通行を終日制限し、周辺交通への影響など課題の把握を行いました。その結果をもとに関係者と協議し対応を図るとともに、トランジットモール化を含めた姫路駅周辺整備について、市民団体等と協働して情報提供や広報活動を展開しました。

## 3. 事業の成果

交通結節機能の改善により、公共交通の乗継の利便性が向上するとともに、トランジットモール化で一般車両との動線交錯は解消され、公共交通

の円滑な運行を実現すると同時に、安全でゆとりのある歩行・環境空間を創出することが出来ました。今後も引き続き、「自然と人が調和し、未来につながる環境城下町・姫路」にふさわしいまちづくりを進めてまいります。



姫路市  
市長  
石見 利勝

〒670-8501

兵庫県姫路市安田四丁目1番地

電話 079-221-2598 (姫路駅周辺整備室)

URL <http://www.city.himeji.lg.jp>

### 姫路市の概要 (平成27年6月1日)

人口 533,106人

世帯数 216,036世帯

面積 534.33平方km

### 姫路市の環境像

自然と人が調和し、未来につながる環境城下町・姫路  
～持続可能な環境共生社会の形成を目指して～